

経営比較分析表（令和3年度決算）

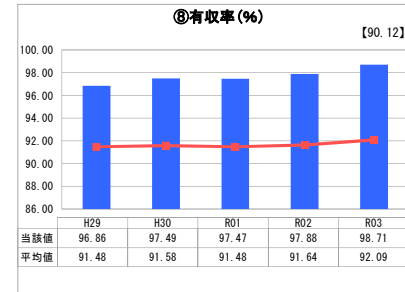
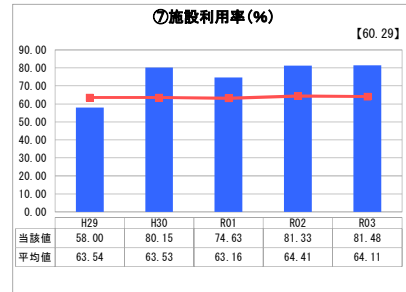
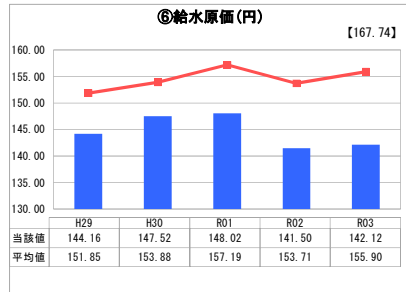
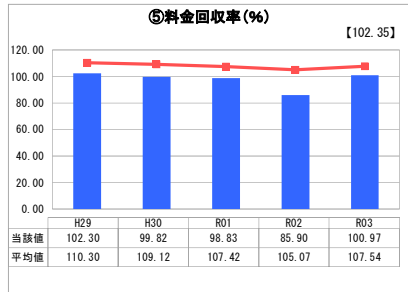
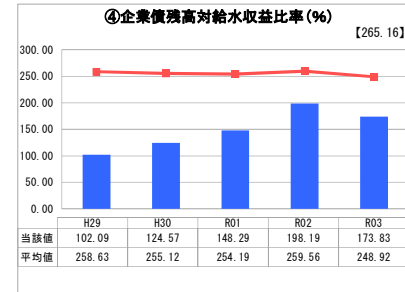
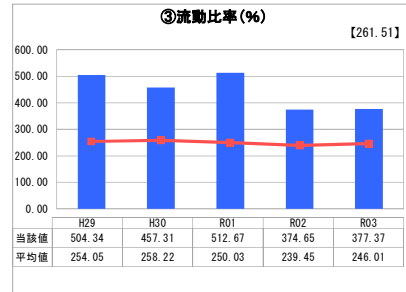
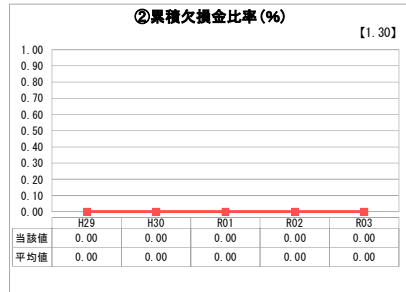
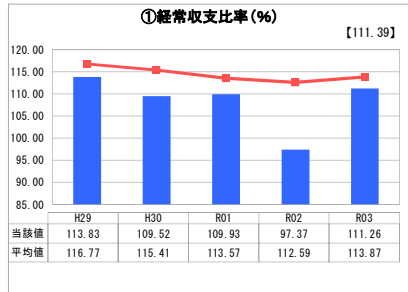
埼玉県 所沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	81.55	100.00	2,134	

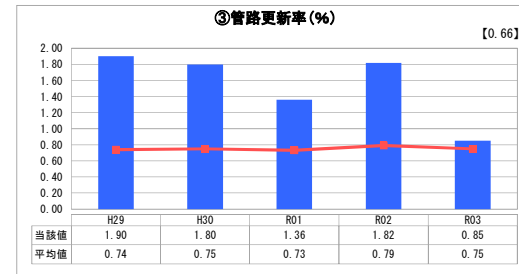
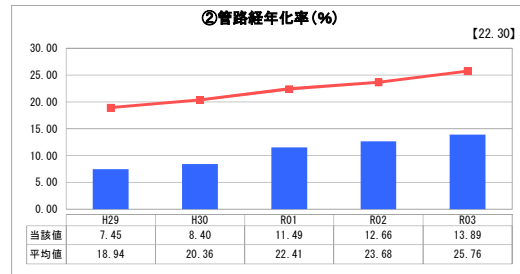
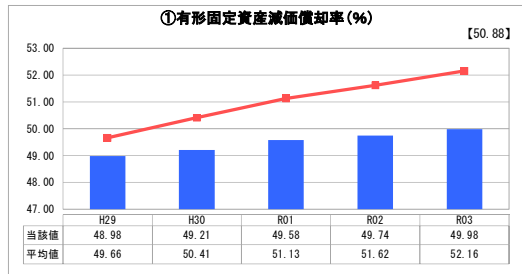
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
343,637	72.11	4,765.46
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
343,735	67.64	5,081.83

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
健全な状況であり、今後も100%超を継続していく必要があります。
- ②累積欠損比率
累積欠損金は発生していませんが、給水収益が長期的に減少傾向にあり注意が必要です。
- ③流動比率
望ましいとされる200%を大きく超えており、支払能力は十分にあるといえます。
- ④企業債残高対給水収益比率
類似団体と比べ比率は低いものの、設備投資の拡大に伴う資金需要により今後も増加が見込まれます。
- ⑤料金回収率・⑥給水原価
料金回収率が類似団体の平均を下回る傾向にあり、さらなる給水原価の圧縮と、適正な供給単価について検討する必要があります。
- ⑦施設利用率
類似団体と比較高い傾向ですが、一日平均配水量は減少傾向にあるため、施設のダウンサイジングを図り、水道施設の規模適正化を検討する必要があります。
- ⑧有収率
類似団体と比べ高い有収率を保っています。管路の布設替えなどにより無効水量の上昇をおさえるため、引き続き適正な維持管理や老朽管更新等を計画的に行い、有収率の低下を防ぐ取り組みが必要です。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
使用年数が法定耐用年数の5割程度を経過している状況です。事業費の平準化を図りつつ、計画的に更新していく必要があります。
- ②管路経年化率
類似団体と比べ老朽化の度合いは低い状況といえます。しかし、値は増加傾向にあるため、計画的に更新していく必要があります。
- ③管路更新率
配水管更新工事の一部が翌年度へ繰越となったことにより、前年度に比較して管路更新率は減少となりましたが、概ね類似団体と比較すると更新投資は多い状況にあります。一方で、②管路経年化率は増加傾向にあり、経年化・老朽化が進行しています。引き続きダウンサイジングなどを考慮した計画的な取り組みが求められます。

全体総括

経常収支比率から、事業経営は健全であり、支払能力も十分にあるといえます。その一方で、材料費等の物価高騰を受け、工事費や維持管理費等の経費の増加が経営に影響し、経営に必要な経費を料金収入のみで賄うことが困難な傾向が今後も継続していくものと見込まれます。このため、適正な料金収入のあり方を検討しつつ、自己財源確保や再生エネルギーの活用を推進させるなど、一層の経営改善の取り組みが必要であると考えます。

施設については、老朽化の進行が続いていることから、財政状況を踏まえながら計画的に更新を進めていくとともに、水需要の減少に応じたダウンサイジングなど、施設規模の適正化に取り組み、将来に渡り安定供給に努めていきます。

経営比較分析表（令和3年度決算）

埼玉県所沢市 市民医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	ド訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
343,637	6,246	非該当	非該当	10:1

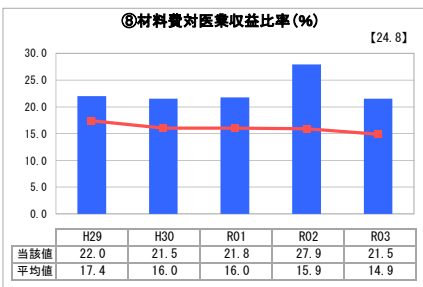
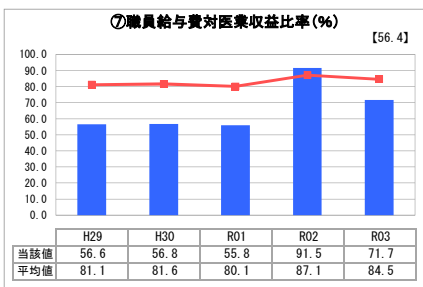
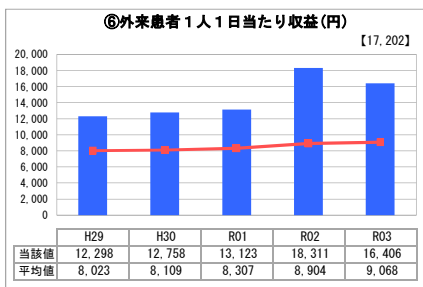
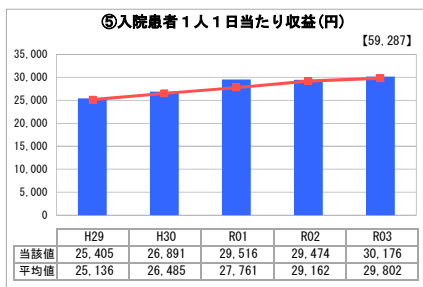
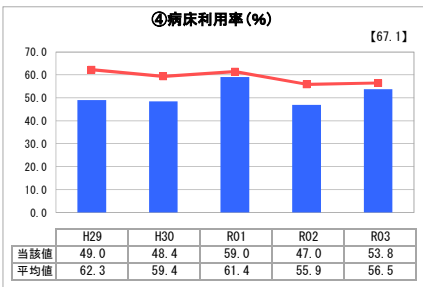
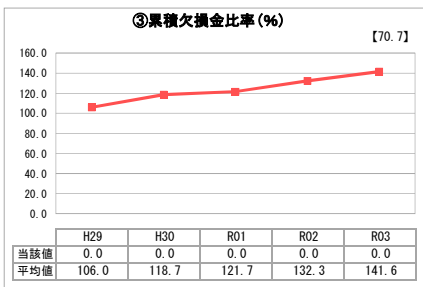
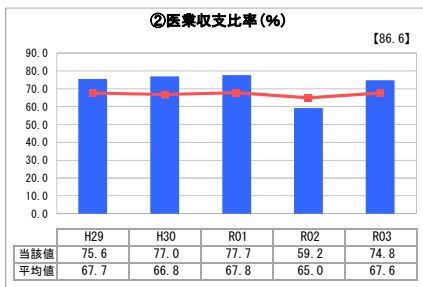
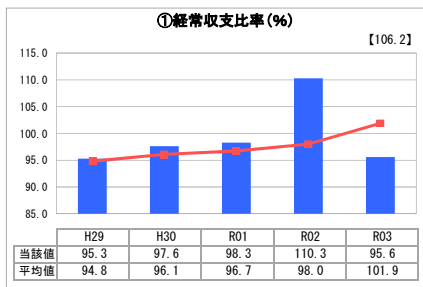
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

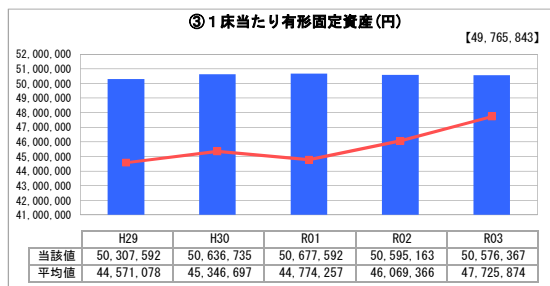
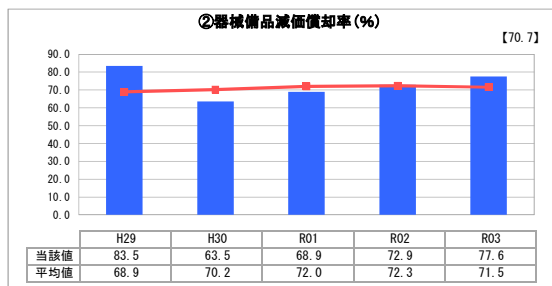
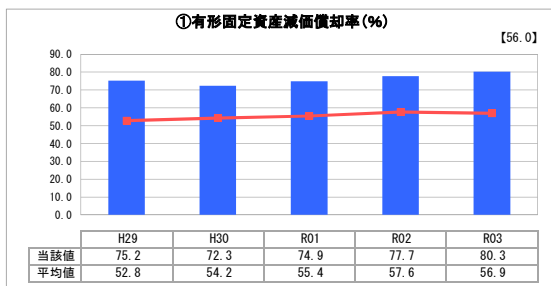
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
49	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	49
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
40	-	40

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
[]	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

埼玉県西部区域にある当センターの果たすべき役割として、在宅医療の後方支援、所沢地区での第二次救急医療体制の病院輪番制への参加、医師会やその他医療機関の協力によるすべての時間帯で対応可能な小児初期救急医療体制の維持、健診事業による市民の健康保持・増進への貢献に加え、地域での回復期機能病床の不足解消に向けて平成30年11月より急性期機能病床の一部を地域包括ケア病床機能に転換しました。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、令和2年度に他会計繰入金の追加により数値が大きく上昇しましたが、令和3年度は100%を下回り、類似病院平均値も下回ることとなりました。

②医業収支比率は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に大きく落ち込みましたが、令和3年度は健診受検者数・患者数とともに回復傾向にあったことから、類似病院平均値を上回りました。

④病床利用率は、類似病院平均値を下回っている状況が続いているため、地域包括ケア病床をより効率的に活用し、病床利用率の改善に努めています。

2. 老朽化の状況について

①～③いずれの項目も類似病院平均値を上回っており、施設の老朽化が進んでいると言えます。本館は昭和51年度に建設されたもので、周辺設備も含め老朽化が進んでおり、①有形固定資産減価償却率が高くなっている要因の一つとなっています。施設の老朽化が進み修繕に係る費用も増加傾向にあるため、施設の整備など適切な対策を講じていくことが必要です。

② 器械備品減価償却率についても、同じく医療機器等の老朽化により、上昇傾向にあります。

全体総括

本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で減少した患者数が、回復傾向にあったことにより医業収支比率が前年度から改善しました。また、新型コロナウイルス感染症対応として、発熱外来の継続やワクチン接種業務など、公立病院としての役割を果たしてきました。病院事業の経営にあたっては、引き続き厳しい状況が想定されますが、公立病院として地域の中で必要とされる役割を、安定的・継続的に果たすとともに、医業収支の改善をはかるよう引き続き努めています。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和3年度決算）

埼玉県 所沢市

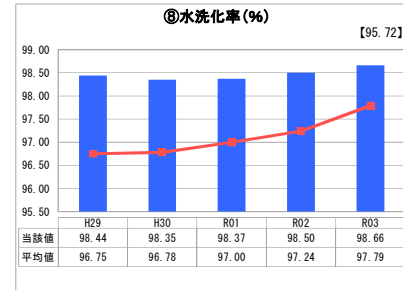
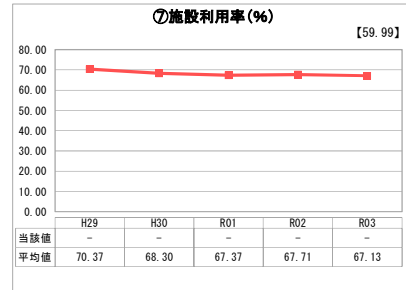
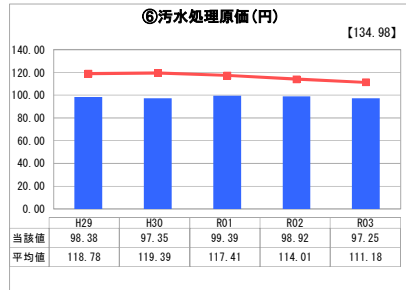
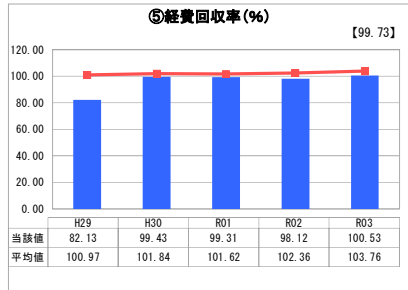
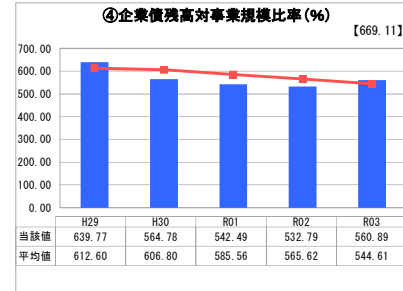
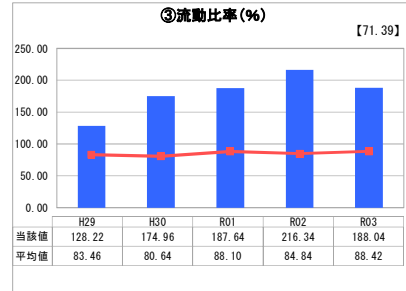
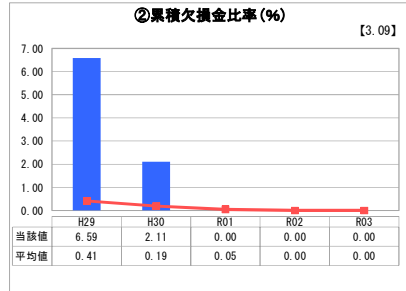
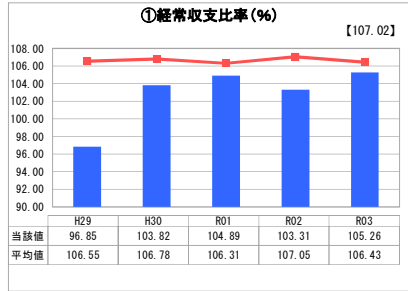
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	75.82	95.05	95.22	1,639

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
343,637	72.11	4,765.46
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
326,740	33.12	9,865.34

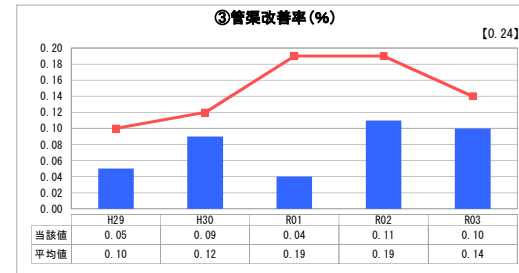
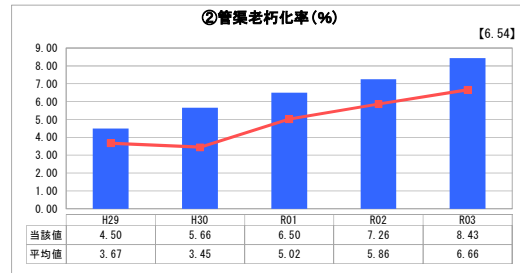
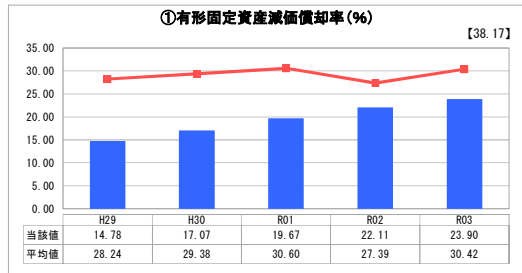
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
数値が100%を上回り、経営の健全性は確保されたものの、今後も効率的かつ効果的な事業経営に努める必要があります。

② 累積欠損金比率
平成30年度の使用料改定により経常利益が確保され、令和元年度に繰越欠損金が解消されました。

③ 流動比率
前年度と比較し若干下回っていますが、今後も管路施設の布設、修繕、改築、耐震化等が予定されていることから、引き続き自己資金の確保に努めていきます。

④ 企業債残高対事業規模比率
若干数値は増加しましたが、後年度負担が過大にならないよう資金バランスを考慮しつつ企業債を活用する必要があります。

⑤ 経費回収率
回収率は100%を超えたものの、依然として分岐点付近を推移していることから、今後も引き続き経費削減に努める必要があります。

⑥ 汚水処理原価
類似団体平均を下回っていますが、物価高騰等による費用の増加が見込まれるため、今後も引き続き経費削減に努める必要があります。

⑧ 水洗化率
横ばいの状況が続いているため、接続率100%に向けて、引き続き水洗化の促進活動に取り組む必要があります。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
数値は低いものの、減価償却が進んでいる状況下において施設の老朽化は進行している状況です。老朽化対策に向けて、施設の点検・検査により現状の把握に努め、施設の安定稼働に向けた取組は必要です。

② 管渠老朽化率
類似団体平均値より高く、上昇傾向にあります。今後も高くなるが見込まれることから、計画的、効果的及び効率的に更新等を進めていく必要があります。

③ 管路改善率
所沢市ストックマネジメント実施方針に基づき、計画的な施設の点検・調査及び修繕・改築を進めており、陥没事故や機能停止を未然に防ぐよう努めている状況です。

全体総括

経営状況として、経費回収率は100%を超えたものの、依然として分岐点付近を推移している状況にあります。今後、自立的な経営に向け、自己財源の確保を推進し収益の向上を図るとともに、将来的な料金改定を視野に入れる必要があると考えます。

管路の経年化率は年々進んでおり、施設更新や維持管理に伴う費用は増加傾向にあることから、経営計画等に基づき、予防保全を中心とした中長期的な視点で効率的な施設更新等を行うため、事業費の平準化や財源の確保に努める必要があると考えます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。